第２章　人口の将来見通し

２－１　全市人口の見通し

国立社会保障･人口問題研究所による本市人口の将来見直しを示したものが下図です。

本市はこれまで一貫して人口増加傾向を示し、2015 年（平成 27 年）では約 11.4 万人になりましたが、将来推計では 2020 年以降減少傾向に転じ、2030 年には約 10.8 万人（約 6 千人の減少）、2040 年には 10.3 万人（約 1.1 万人の減少）になると予想されています。

また、2040 年の高齢化率は約 33%と推計されており、市民の 3 人に 1 人が高齢者と予想されています。

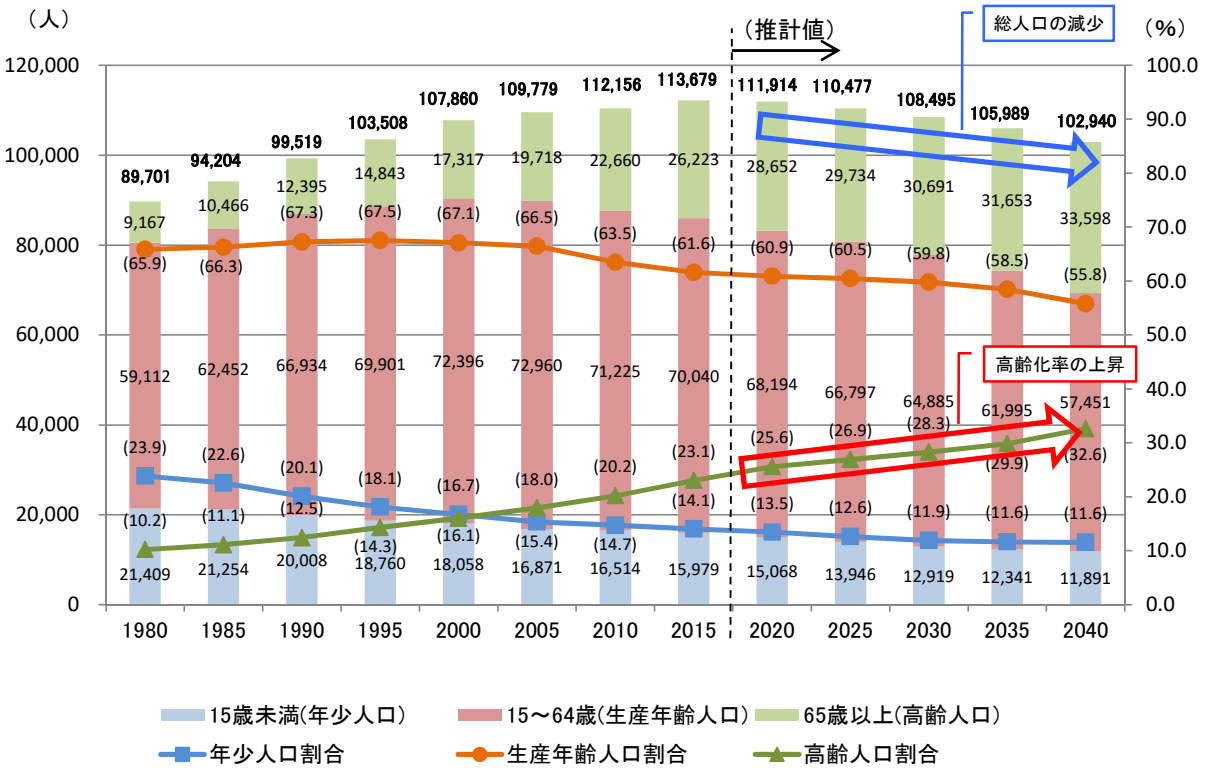

図　人口の将来見通し

資料：国勢調査（～2015）
　　国立社会保障・人口問題研究所「人口推計」（2020～）

２－２　地区別人口の見通し

地区別人口の見通し※を以下に示します。

※彦根市都市計画マスタープラン（平成 29 年 3 月）の策定にあたり推計したもの

（１）総人口の見通し

100mメッシュ単位での、2010 年（平成 22 年）と 2040 年の総人口は下図のとおりで、全市的に人口は減少していますが、新市街地地域の後三条町、長曽根南町、平田町や旧城下町地域といった市中心部での人口減少が大きくなっています。

※文中の地域表現は下記による（都市計画マスタープランによる地域区分）
・鳥居本：鳥居本　・旧城下町：芹川以北、JR 線以西　・新市街地：芹川～犬上川、JR 線以西
・彦根駅東：芹川以北、JR 線以東　・南彦根駅東：芹川～犬上川、JR 線以東　・河瀬：犬上川～宇曽川
・稲枝：宇曽川～愛知川

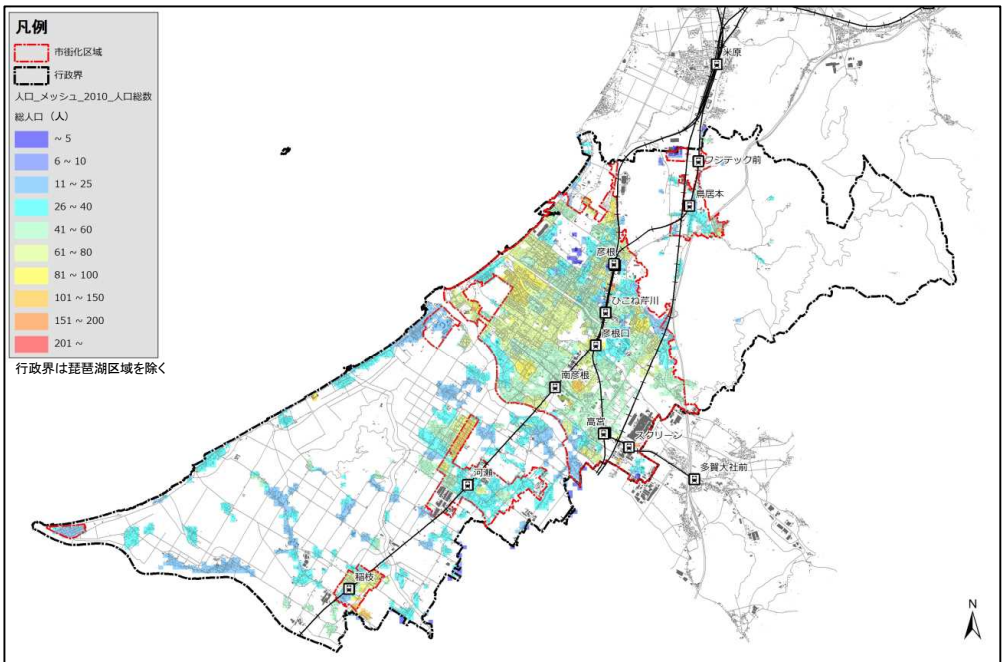

図　2010 年（平成 22 年）総人口

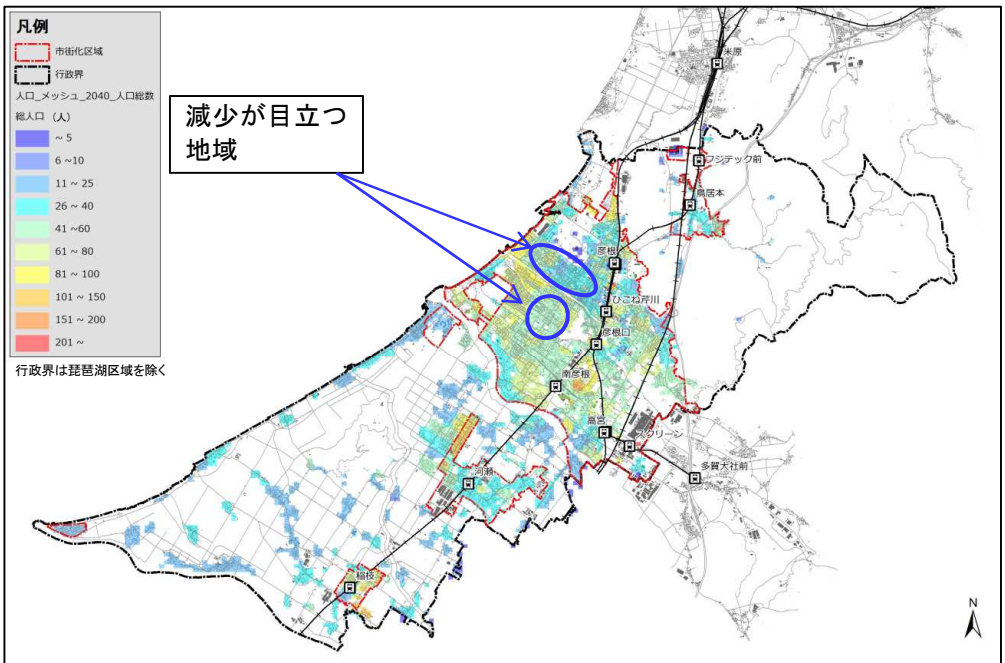

図　2040 年 総人口

（２）年少人口の見通し

100mメッシュ単位での、2010 年（平成 22 年）と 2040 年の年少人口は下図のとおりで、全市的に年少人口は減少していますが、特に減少が大きい地域は、南彦根駅の東西、新市街地地域の西今町等となっています。

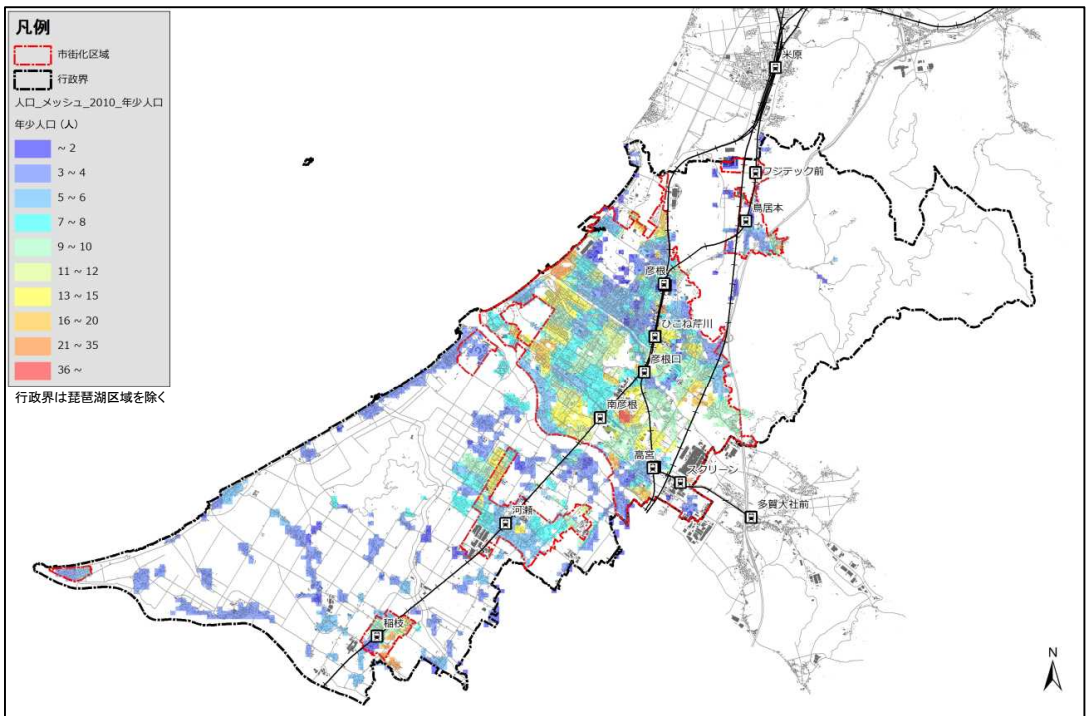

図　2010 年（平成 22 年）年少人口

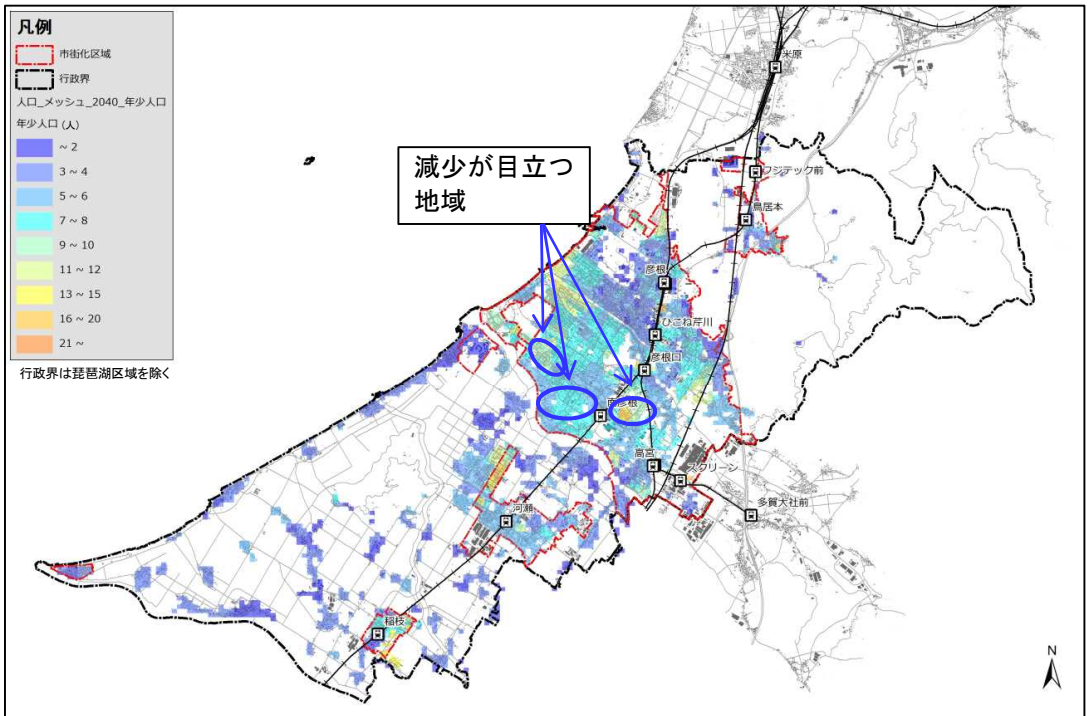

図　2040 年　年少人口

（３）生産年齢人口の見通し

100mメッシュ単位での、2010 年（平成 22 年）と 2040 年の生産年齢人口は下図のとおりで、全市的に生産年齢人口は減少していますが、旧城下町地域や新市街地地域の芹川の両岸では特に減少が大きくなっています。

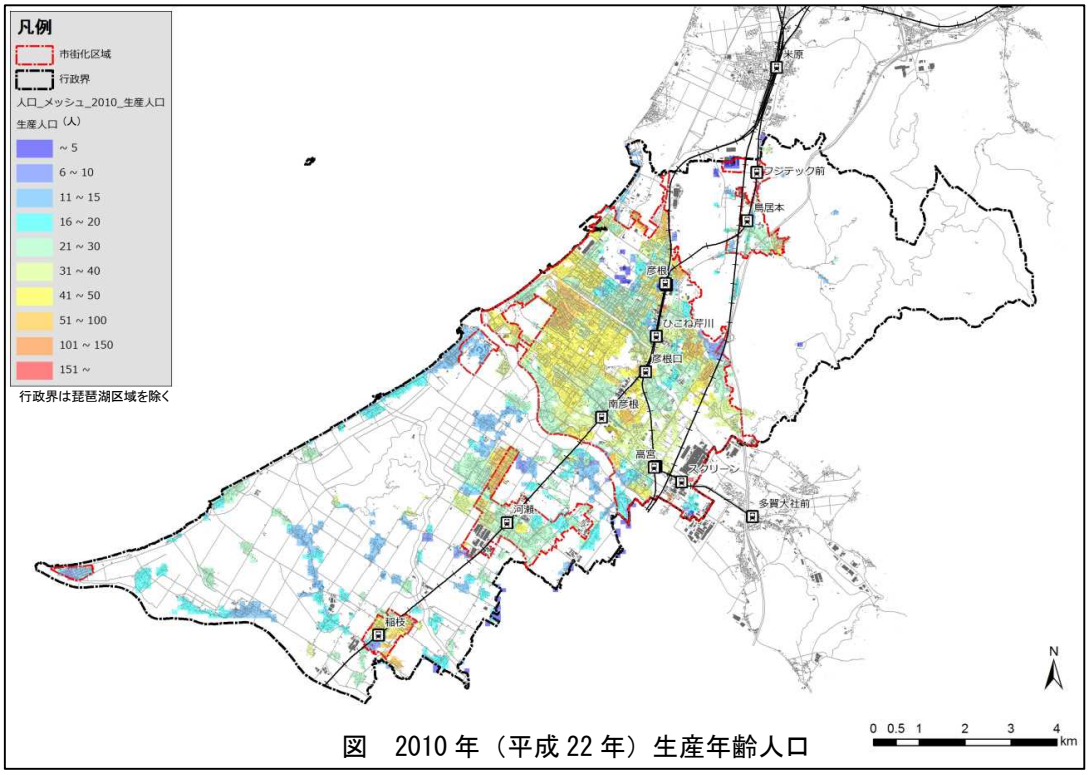

図　2010 年（平成 22 年）生産年齢人口

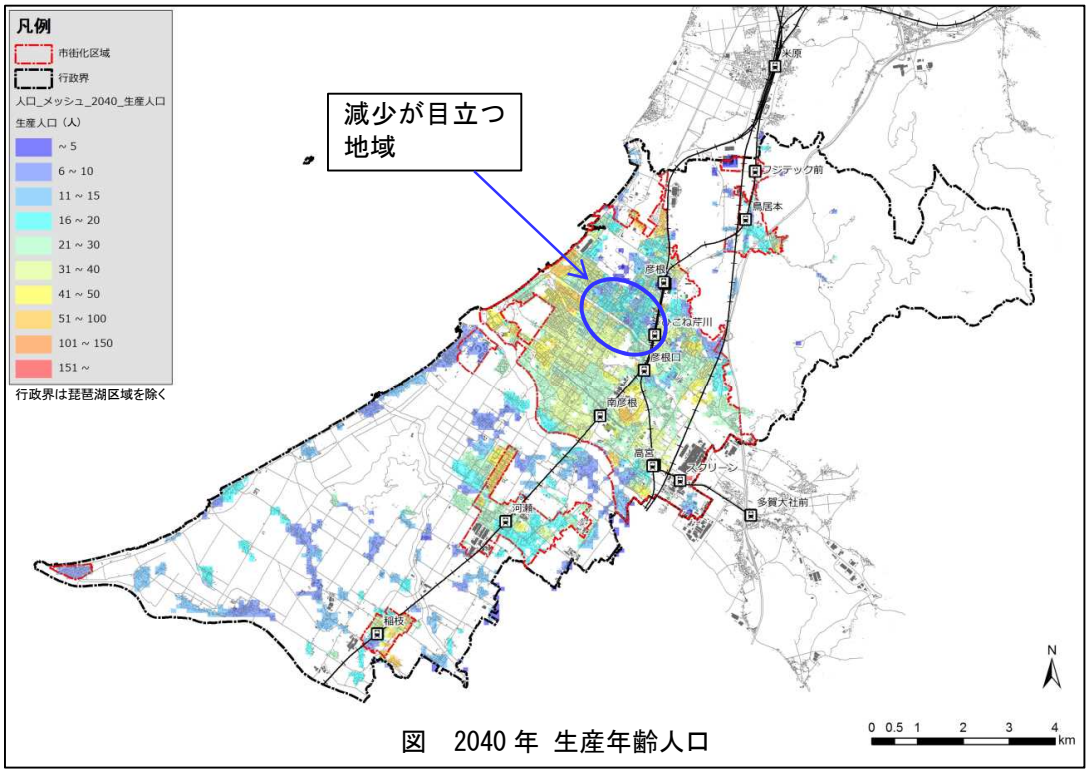

図　2040 年 生産年齢人口

（４）高齢者人口の見通し

100mメッシュ単位での、2010 年（平成 22 年）と 2040 年の高齢者人口は下図のとおりで、高齢者人口については、旧城下町地域では減少が予想されます。一方、彦根駅東地域、南彦根駅東地域、新市街地地域の西今町等で大きく増加することが予想されます。その他の地域でも概して、増加傾向となっています。

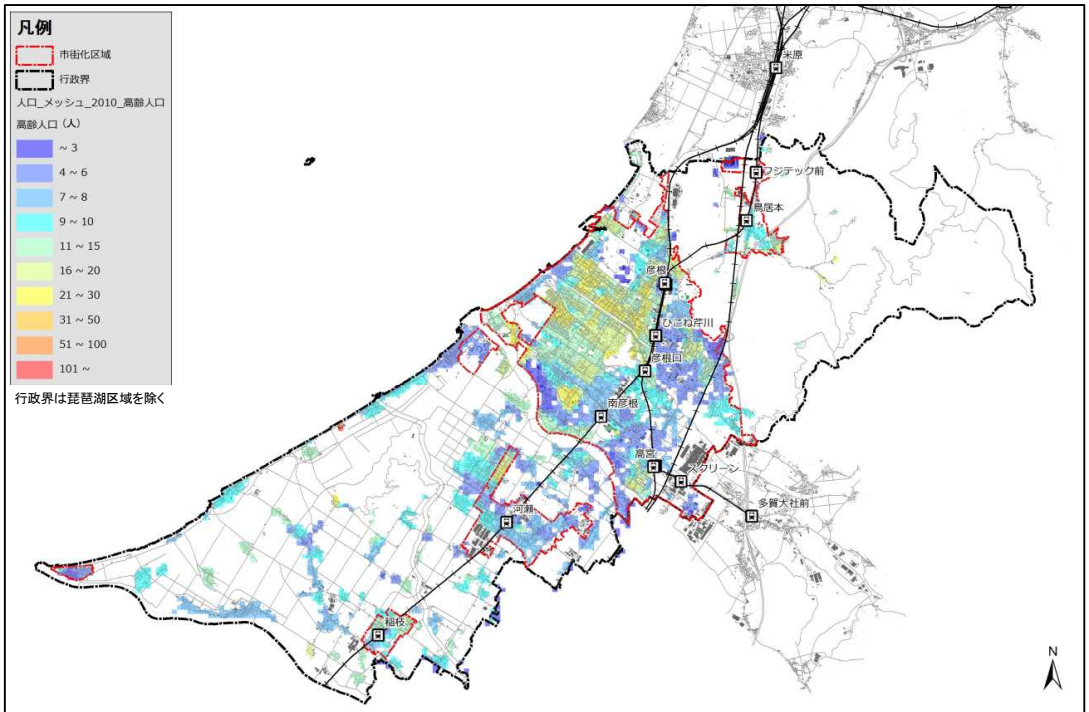

図　2010 年（平成 22 年）高齢者人口

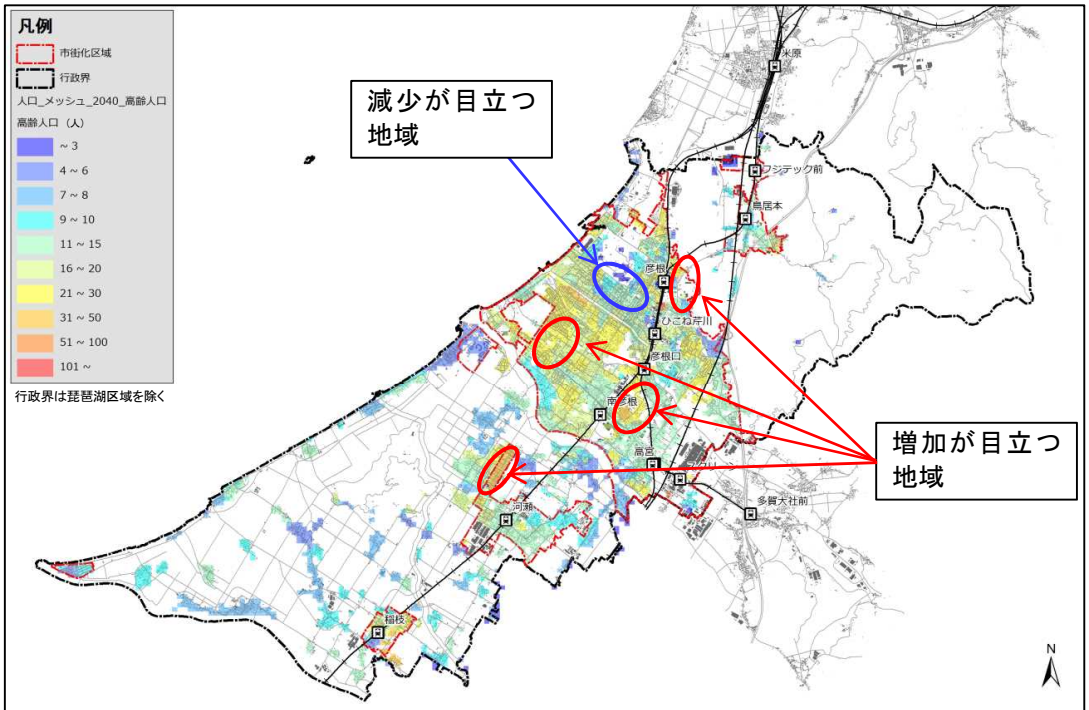

図　2040 年 高齢者人口

（５）人口密度の見通し

100mメッシュ単位での、2010 年（平成 22 年）と 2040 年の人口密度は下図のとおりで、旧城下町地域において密度の低下が大きくなっています。

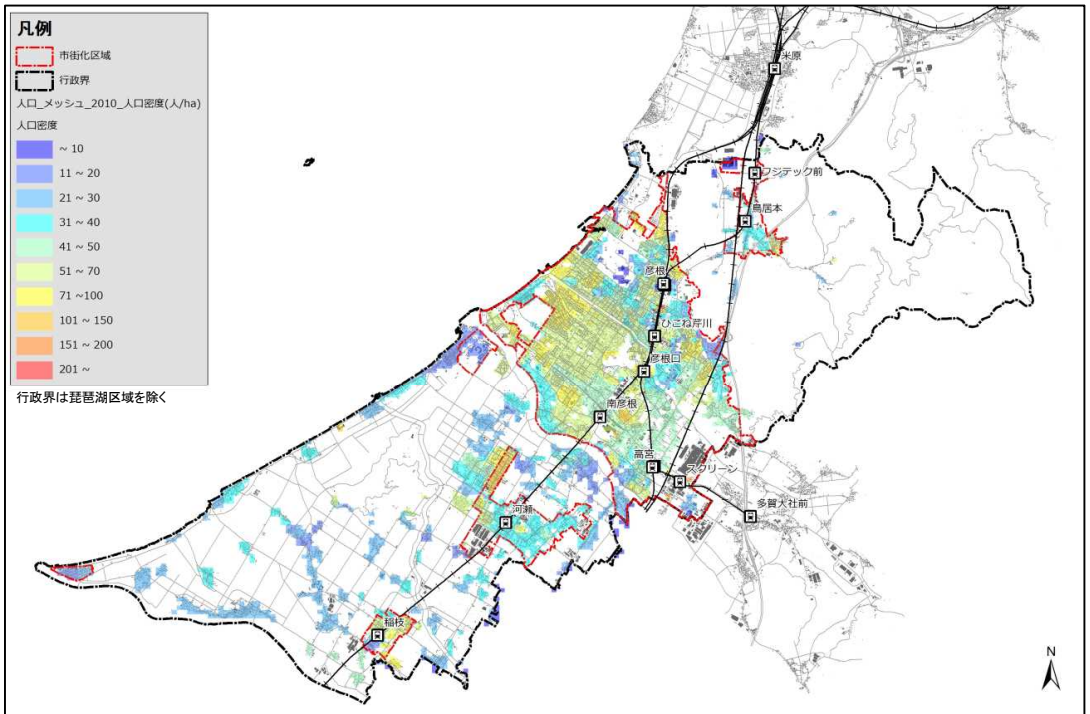

図　2010 年（平成 22 年）人口密度

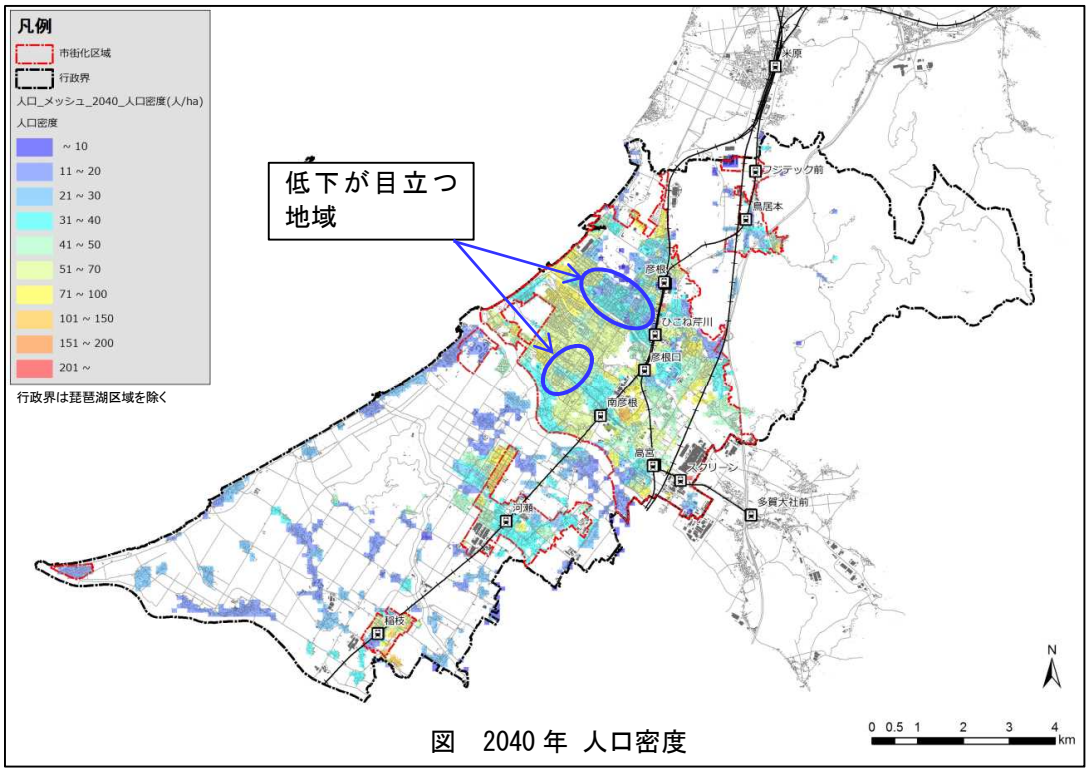

図　2040 年 人口密度